

M&M 農業 複合経営から北海道の新しい畜産のかたちを探る

5年に一度、開催される全国和牛能力共進会。5年後の2027年、私たちの住む北海道での開催が決まりました。とわの森三愛高校家畜班の長期目標は5年後の北海道大会出場と入賞。短期目標として今年度行われる鹿児島大会に出場することを目標に設定し、昨年から課題解決学習に取り組んでいます。一昨年度より企画、繁殖が進められ、昨年待望の1期牛群が4頭誕生。さらに今年度は和牛甲子園の体験発表部門にエントリーすることになり私たちの活動が始まりました。

今年の活動の柱は3つ。1つ目は来年の和牛甲子園の枝肉評価部門に出場するための飼養管理を行うこと。2つ目は第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会の出場。最後は畜産経営の新しいかたち「複合経営」の実用を目指すこと。家畜班17名中12名、約70%の班員の実家で酪農業を営んでいます。しかし、新型コロナ対策の余波による円安から物価高騰、ロシアによるウクライナ侵略の影響で飼料価格の高騰。このことから収益安定の方法を模索し、「農業と環境」や「総合実習」、「畜産」、「農業経営」、「朝夕牛舎実習」、「道央実習」「委託実習」等を中心とした授業、実習で学んできた酪農経営の知識を肉牛にも活かすことはできないかと考え、乳牛と肉牛の複合経営に着目しました。

活動計画

4月。新2年生を迎えて次の通り活動計画を立てました。4月から活動を開始し餌やりや除糞を当番制で毎日実施、体測は上級生から下級生へ、指導・伝達。これを2週間に1度。5月からは雪解けを待ち全頭調教・繫牧を開始。7月には鹿児島大会出品に向け選畜。8月鹿児島大会北海道予選特別区への出品。10月には第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会が開催され、とわの森三愛高等学校初の出品予定という計画でした。

実践1 出荷に向けての飼養管理

出生日に間隔があったため酪農学園大学農食環境学群循環農学類家畜繁殖学研究室の学生と一頭ごとに哺乳、飼料設計を行い、今後の方針の指導もしていただきました。生後直後の体調不良、特に下痢は今後の生育に大きな影響を与えるから気をつけるように。と指導を受け、哺乳期間は便の状態や日々の変化を感じるため観察を欠かしませんでした。配合飼料には育成用飼料を給与し一頭ごとの採食に合わせ徐々に增量をし、給与から三ヶ月で一日4kg採食をさせました。

実践2 和牛能力共進会への取り組み

共進会の審査員は一目でブラッシングの手抜きを見破る。と酪農大学学長の堂地修先生に助言をいただき出生から毎日ブラッシングをしました。7月に行った選畜後ちよこ号の毛色が黒ではなく茶色がかっていたのが気になっていたので海藻粉末飼料アルギフローラ2号を1日100gずつ配合飼料に混ぜ給与していました。生後半年は柔らかく、細い二番草を給与、半年以降は纖維質な一番草を飽食させ、肋の張りと豊かなお腹を育てました。除糞では牛たちの便の状態を確認するために班員が日替わりで作業を行い健康管理に役立てていました。第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会北海道選抜会は体側・調教・ブラッシング・運動・除糞を行いました。1週間に1度和牛の体側を行いました。測定項目は体高・十字部高・体長・体重など全14項目を調べました。この体側を通して和牛の成長過程を数値化し個体管理に生かしていました。また大学生の方にシグマ値について教えていただきました。シグマ値とは全国和牛登録協会が定める発育曲線に沿った発育状況であるかを知るのに大切な値です。発育曲線との差が1.3から1.5が理想的な数値とされています。市場では大きい牛が良いとされていますが、本来の和牛は小さく肉質が良いのが特徴です。共進会に出品するにあたりこのシグマ値はとても大切な指標になります。調教では大学生の方に牛舎に来ていただき調教方法や牛の扱い方など実践的な場で様々なことを教えていただきました。大学生の方からは「しっかりと食べているので背を盛っていて体状線が真っ直ぐになりかなり良い状態になった」と言っていただきました。第12回全国和牛能力共進会北海道予選では残念ながら鹿児島大会への出場権は獲得できませんでしたが和牛審査競技大会に3年生の小松拓斗が出場しました。結果、入賞はできませんでしたがとても良い経験になりました

実践3 M&M 農業実用に向けて

私たちは和牛甲子園の取り組みと共に進会参加と並行し、M&M 農業の実用を取り組んできました。ウクライナ侵攻で穀物流通量が低下。そこに中国の買い占めと加速した円安により飼料価格が高騰しました。その影響から酪農経営が厳しい現状にありました。また酪農家の生産品である生乳は取引価格の変更が容易に行いづらいというのが、経営緩和に向かいづらい要因です。そんな中着目したのが和牛の肥育です。付加価値をつけ販売方法を考えていけばある程度収入を調整できることから、牛乳と牛肉、ミルク&ミート M&M 農業を今の酪農に取り入れることを考えました。現在の課題は配合飼料の負担が大きい、居住スペース確保が大変なところです。対策としては、自家生産の飼料で配合飼料の割合を抑えることと、とわの森産米を使った飼料米の取り入れを調整中です。

まとめ

和牛飼育が始まり1年7ヶ月が経ちました。今年度も大学生の方にアドバイスをいただきながら活動してきました。今年度の目標であった第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会出品には惜しくもとどきませんでしたが、班員全員で毎日の飼養管理や調教に取り組み同じ目標に向かい日々

努力してきました。今後は来年度の和牛甲子園の枝肉評価部門に出場できるよう活動を続けていきます。

来年の8月には3頭の出荷を予定しています。今年度は共進会で良い成績を残すことができなかったので来年度も和牛共進会へ参加し良い結果を残せるよう日々の飼養管理や調教を頑張って行ければと思っています。今年度は牛が仕上がっていなかったため牛肉販売を行えませんでしたが来年度は実施したいと思っています。それを実現するために繁殖、育成、肥育、販売までを目標に今後とも和牛の管理を続けていきます。